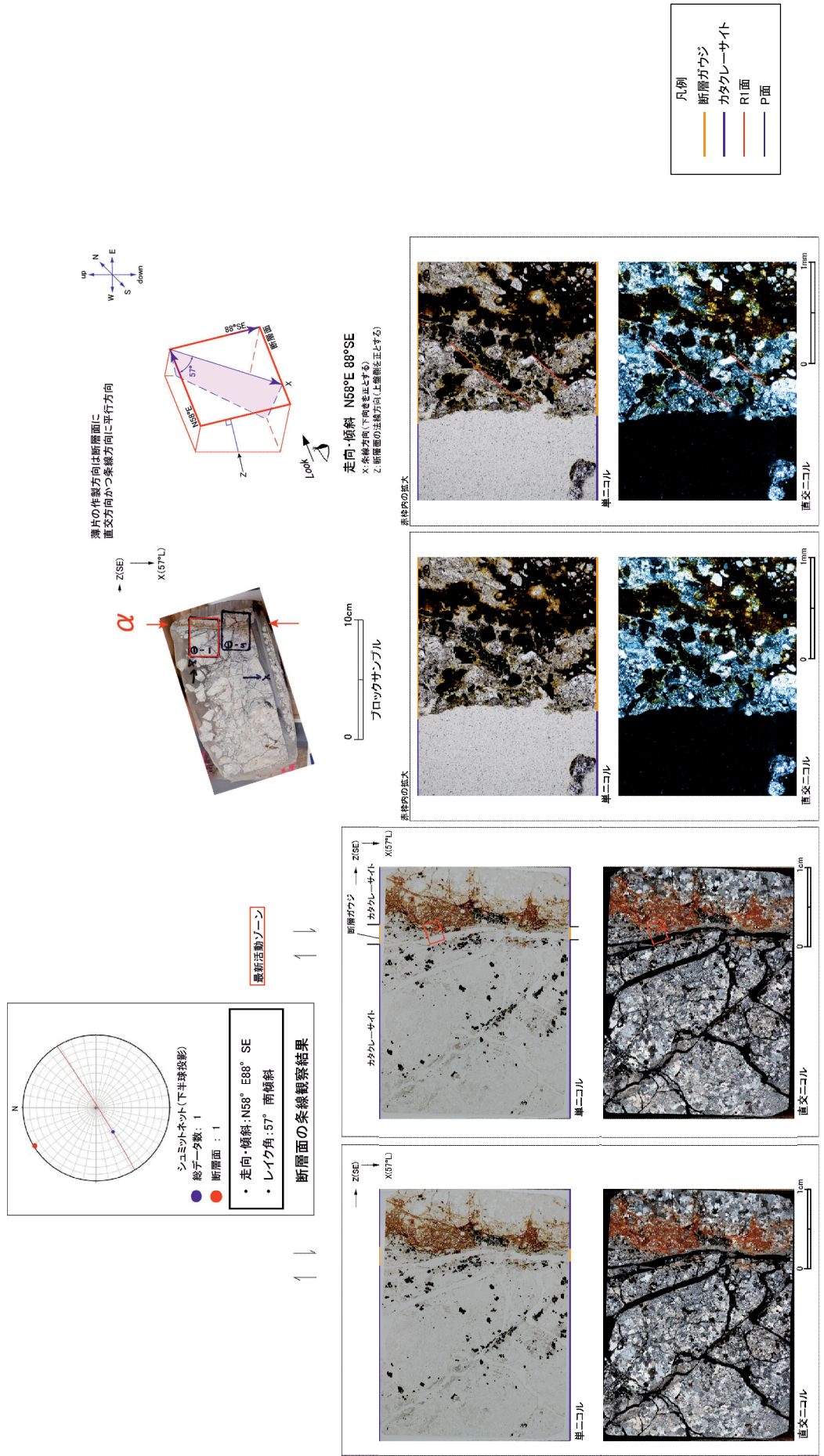


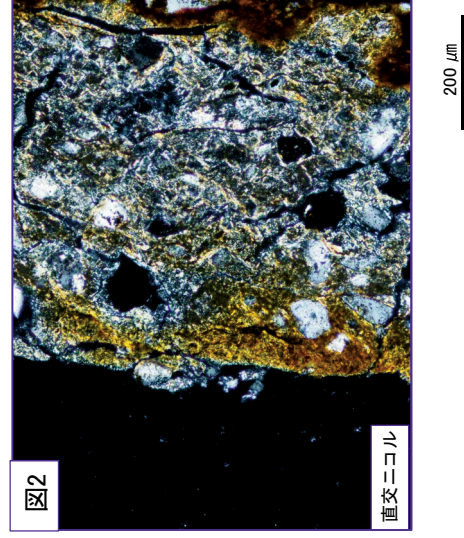
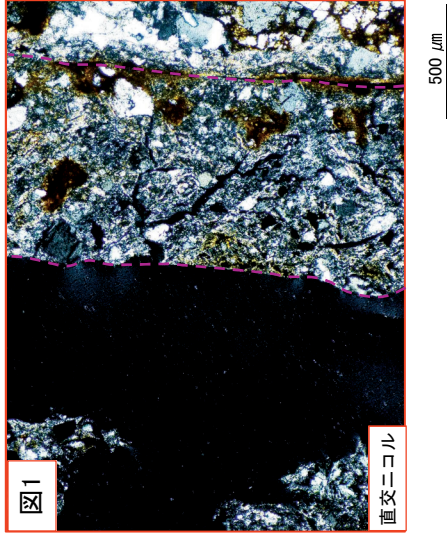
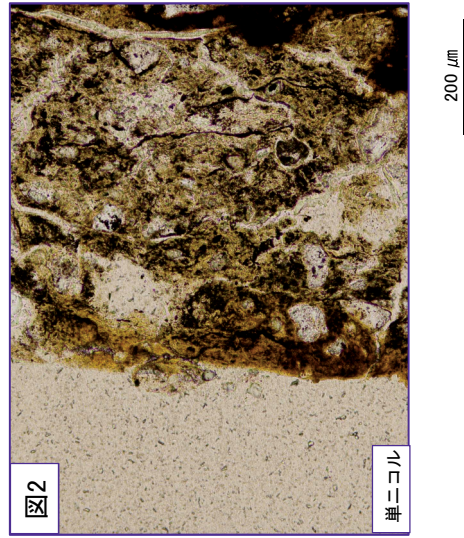
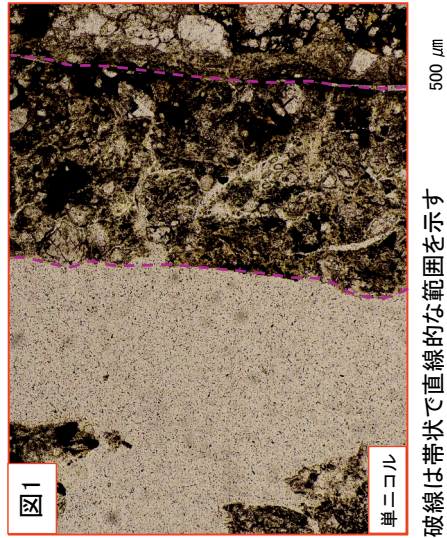
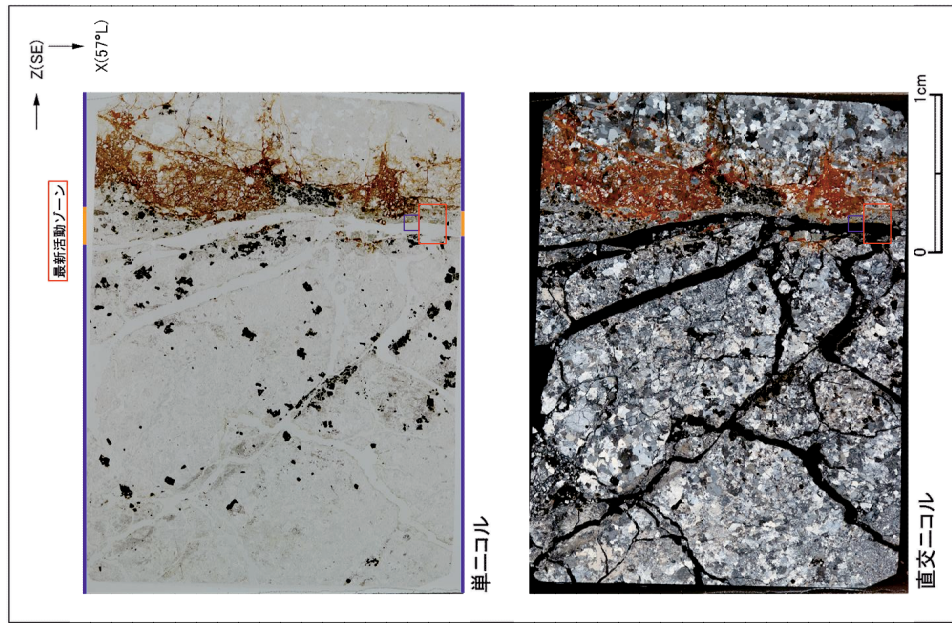
- ・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.303図 (3) 破碎部性状 H24-B14-2 深度38.10~38.27m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



第7.4.4.303図 (4) 破碎部性状 H24-B14-2 深度38.10~38.27m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度38.10m)

- 肉眼観察では、粘土混じり礫状部はフィルム状の細粒部が挟在しており、幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土混じり礫状部の細粒部は、原岩組織の有無が把握できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	フィルム状	有

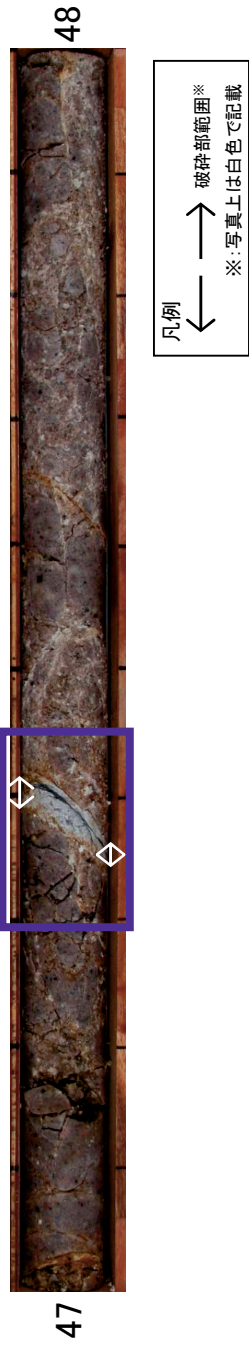
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度47.37～47.40mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、連続性及び直線性が良い暗灰色の細粒部を挟在するが、硬質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●47.37～47.40m：破碎部
粘土混じり礫状部 (Hj)
上端40°、下端45°、ともに凹凸して連続。径2～5mm程度の暗灰色ある。下端付近に幅1～3mmの暗灰色粘土を挟在する。灰白～褐色を呈する。幅20～25mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い暗灰色の細粒部

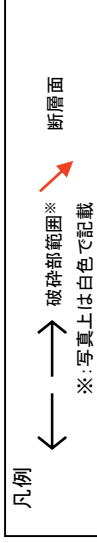


第7.4.4.304図 (1) 破碎部性状 H24-B14-2 深度47.37～47.40m (肉眼観察による断層岩区分)

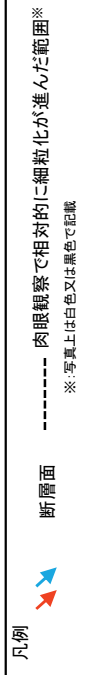
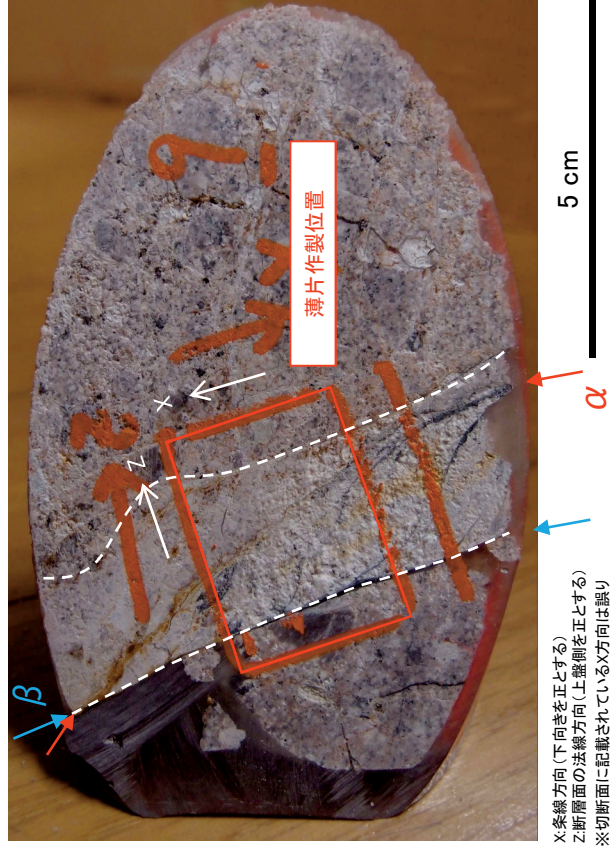
・薄片は断層面 α 、 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

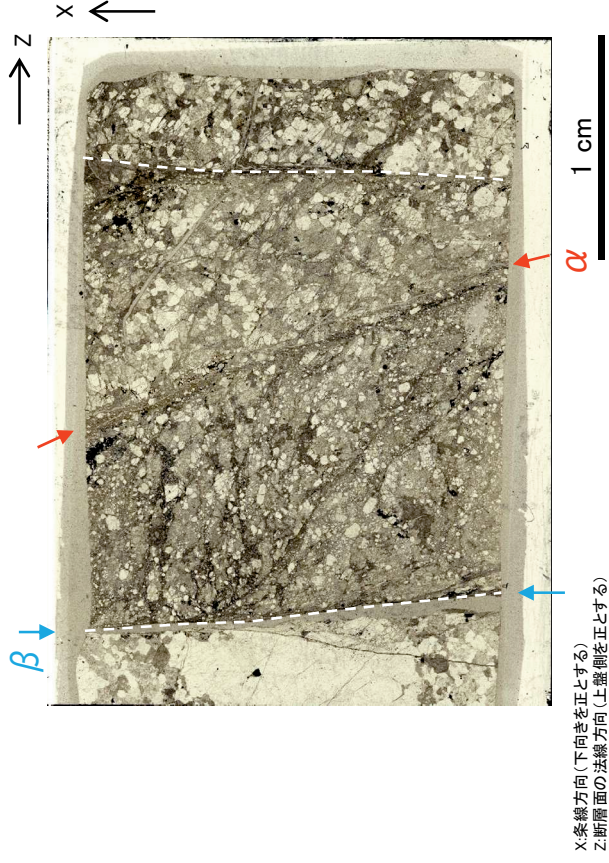
コア写真



薄片作製位置写真

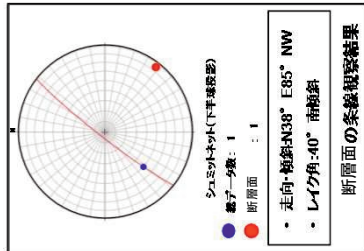


薄片全景写真(単ニコル)

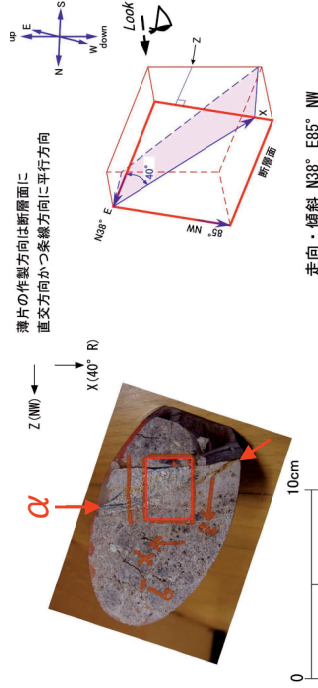


・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば断層面 α 沿い最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状の岩片は連続しない。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



※断層面 α は最新活動面

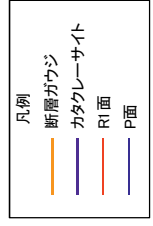
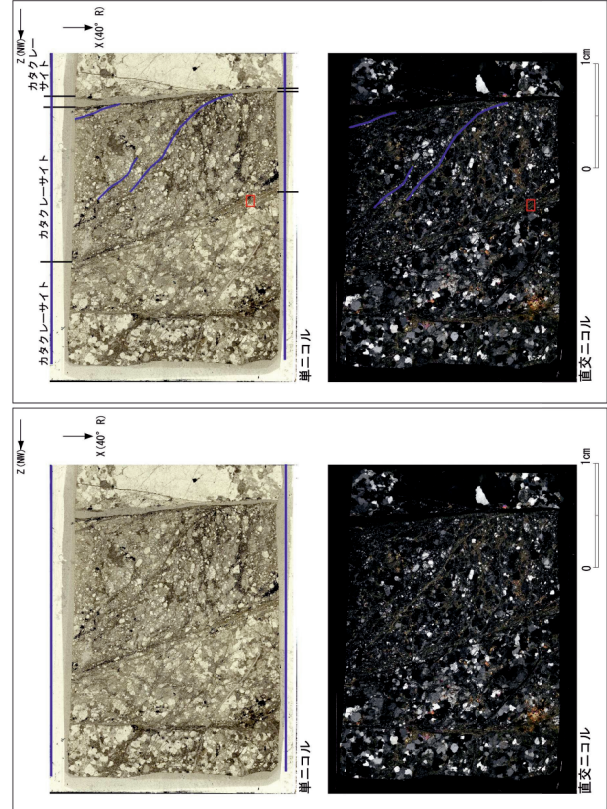


走向・傾斜 N38° E85° NW

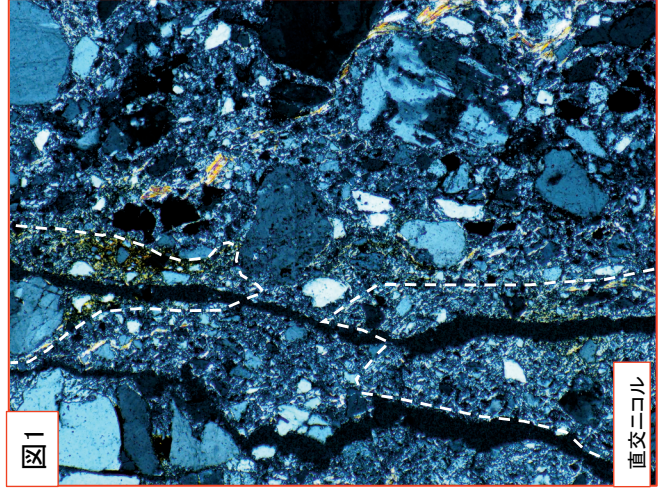
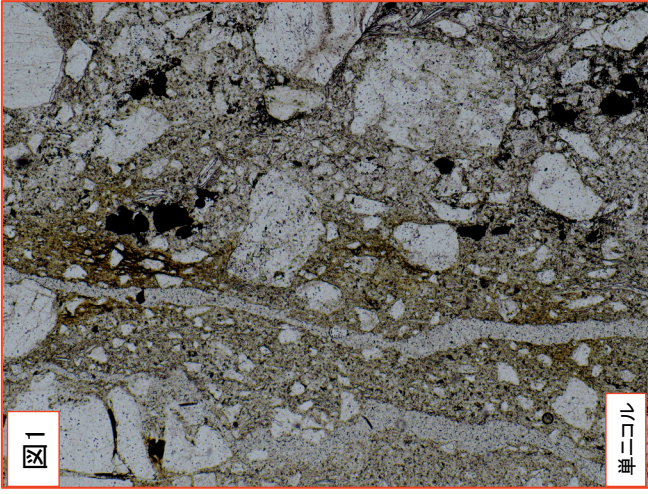
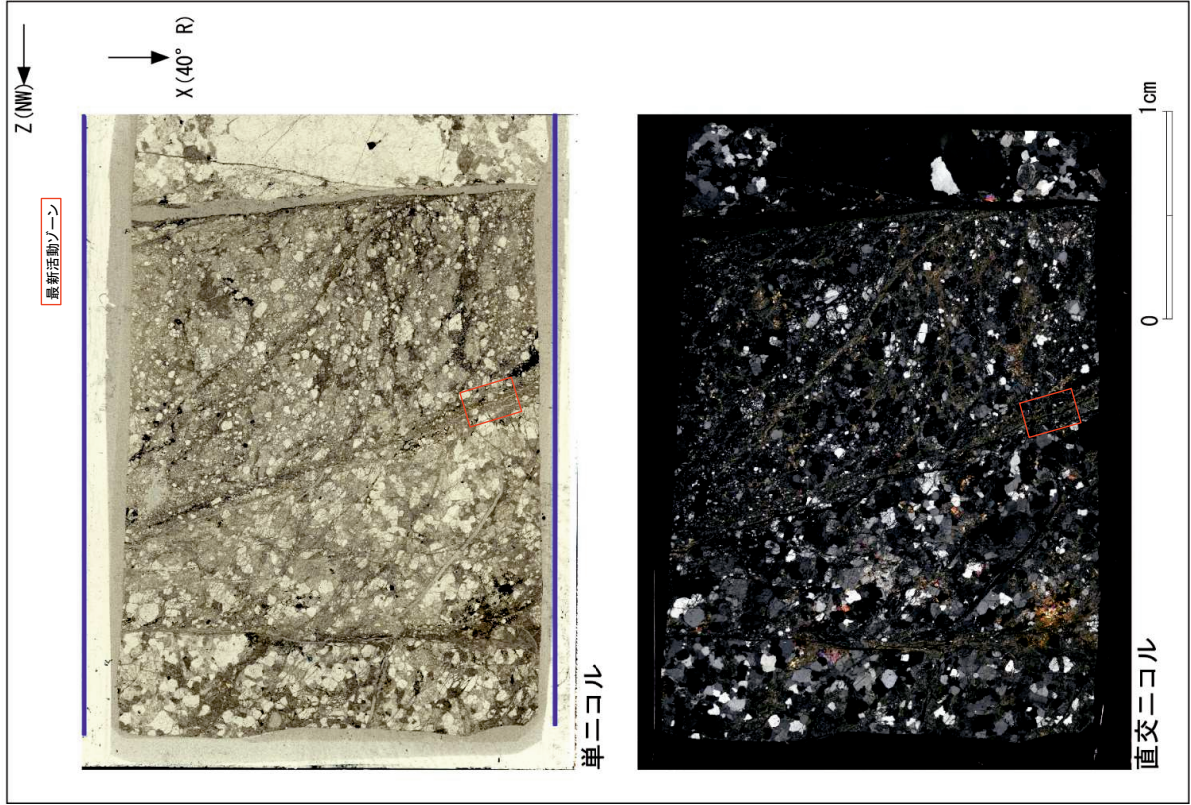
X: 条線方向 (下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向 (上向きを正とする)

※断面に記載のX方向は誤り
ブロックサンプル



- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)



破線は粘土状部の分布範囲を示す